

体育科学習指導案

令和8年6月11日(木)

学習指導Ⅱ

第5学年2組(体育館)

授業者 藤井 祐聖

岩崎莉梨花

【単元】トスキャッチバレーボール(E ボール運動 イ ネット型ゲーム)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> トスキャッチバレーボールの行い方についての知識, ボールをレシーブしたり, 味方が受けやすいようにボールをつないだり, 相手コートにボールを打ち返したりする基本的なボール操作, チームの作戦に応じた場所に移動する技能 	<ul style="list-style-type: none"> トスキャッチバレーボールにおけるチームの課題や強みに応じた作戦を選ぶ力, 課題解決のために考えたことを仲間に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> トスキャッチバレーボールに積極的に取り組むとともに, 規則を守り, 仲間と助け合って運動したり, 勝敗を受け入れたり, 仲間の考えを認めたりすること
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> シュートプレルボールにおいて, ネット付近で強くシュートしたり, ボールを操作しやすい場所に移動したりすることができる。 空中にあるボールを操作することが難しいため, 仲間が受けやすい場所にボールをつなぐことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> シュートプレルボールにおいて, チームの課題解決のために, 考えたことを仲間に伝えることができる。 自分のチームの様子を客観的に捉えられなかったり, チームの課題が可視化されていなかったりするため, チームの現状を把握できず, チームの課題や強みに応じた作戦を選べない子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 規則を守ったり, 勝敗を受け入れ, 積極的に運動に取り組んだりできる。 自分の考えのみに固執してしまうことがあり, 仲間の考えを認められない子どもがいる。
価値	<ul style="list-style-type: none"> トスキャッチバレーボールは, 3人で連携して相手コートに返球をし, ラリーをするゲームである。仲間と声をかけ合い, 連携してパスをつなぎ, 相手が捕りにくい場所にボールを返球したり, 返球されたボールをレシーブしたりして, せめぎ合いながらラリーを続ける面白さがある。本単元では, 縦13m, 横6m, ネットの高さ1.8mのコートの中で, 必ず一人1回, ボールに触ってから返球するため, 全員がボールに触られる。また, ボールの滞空時間を伸ばすために, サーブを下投げにしたり, ポリ塩化ビニル製のボールを使用したりする。そして, ワンバウンドしてからレシーブしたり, トスする際に一度キャッチしたりすることで, 移動や捕球姿勢をとる時間の確保につながり, 3人の連携プレイを身に付けられる。さらに, 得点ルールとして, 相手コートにボールを落としたときに加え, 相手コートに返球できた際にも, 1点を獲得できるとすることで, 3人で連携してボールを繋ぐ意識を高めることにつながり, ラリーを続ける楽しさを実感できる。仲間と連携しながらパスをつなぎ, 相手コートにアタックすることや, ボールの方向に体を向けて, その方向に素早く移動するなどといったネット型の特性に着目することで, トスキャッチバレーボールの楽しさや喜びを実感することができる。 仲間がキャッチしやすいボールの滞空時間について考えることは, 余裕をもってボールの落下地点に入り, レシーブをすることにつながり, 3人で連携してボールをつなげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作戦を選ぶ際, コート図上に相手コートに返球できたときのセッターの場所に○を, 返球できなかった場所に×を記述するゲーム記録を取ることは, チームの特徴を把握することにつながり, チームに応じた課題を見付けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> たくさん得点を取るためには, アタックがしやすい場所にボールをつなぐ動きについて, 仲間と動きを見合ったり, 話し合ったりする必要がある。話し合いを通して, 仲間の考えのよさに気付ける。
見方・考え方	トスキャッチバレーボールにおいて, アタックやレシーブ, トスなどの基本的なボール操作やチームの作戦に合った場所に移動する動きに着目して, プレイしたり, 仲間のプレイを見て考えを伝えたり, 目標とする動きからポイントを見いだしたりする。		
今後の学習	6年「ソフトバレーボール」において, チームの作戦に応じた場所に移動して, レシーブしてボールをつないだり, 相手コートにアタックしたりする動きに着目し, プレイしたり, チームの課題解決のために考えたことを仲間に伝えたりしていく学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	仲間と連携し、動きのポイントを見つけて、チームの特徴に応じた作戦を基に、場所に移動したり、レシーブやトス、アタックをしたりして、トスキャッチバレーボールを楽しめる。		
評価 規準	(①知・技) トスキャッチバレーボールの行い方を理解し、落下地点に素早く移動してレシーブしたり、ボールに体を向け、アタックしやすいトスを上げたり、大きく腕を振ってアタックしたり、チームの特徴に応じた作戦の場所に移動したりする動きを身に付けている。 (②思・判・表) レシーブやトス、アタックの動きのポイントを見付けたり、チームの課題や強みに応じた作戦を選んだり、チームの課題解決のために、考えたことを仲間に伝えたりしている。 (③主体的態度) 規則を守り、仲間の考えを認めたり、勝敗を受け入れたりして、公正にトスキャッチバレーボールに取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○試しのゲームを行い、共通のめあてを立てる。 共通のめあて アタック、トス、レシーブの動きのポイントを見付け、3人で連携して攻めたり、チームの特徴に合った作戦を選んだりして、5の2トスキャッチバレーボール大会を楽しもう	○トスキャッチバレーボールに取り組む上での動きや学び方の見通しがもてるように、「トスキャッチバレーボールの楽しさ」「できるようになりたいこと」「学び方」の視点を提示する。 ◇ 試しのトスキャッチバレーボールに取り組んで得た感想を基に、視点に沿った内容を記述している。 <学習プリント③>
追究する	1	○レシーブのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○レシーブの動きのポイントに気付けるように、「腕の形」「ボールの位置」の視点を提示する。 ◇ ボールの落下地点に素早く移動し、肘を伸ばして、両腕で三角形を作り、レシーブしている。 <行動①>
	1	○トスのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○トスする動きのポイントに気付けるように、「ボールを構える場所」「ボールの高さ」の視点を提示する。 ◇おでこの上にボールを動かし、アタックしやすいトスを上げています。 <行動①>
	1	○アタックのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○アタックの動きのポイントに気付けるように、「ボールの位置」「腕の動き」の視点を提示する。 ◇ ボールの落下地点に入り、腕を前に伸ばしながら、大きく振ってアタックするというポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○トスの位置に応じた、アタックする人の動きを考え、ゲームに取り組む。	○トスをする人が、ネットから離れた場所でボールを持ったとき、相手コートに返球できていないことに気付けるように、課題となる場面の動画を提示する。 ◇トスの位置に応じて、アタックする場所を移動し、相手コートに返球している。 <行動①>
	1	○ネット付近でレシーブした場面の、ボールを持たない2人の動きを考え、ゲームに取り組む。	○ネット付近でレシーブした場合の、ボールを持たない2人の動きに気付けるように、トスとアタックのポイントを再提示する。 ◇ネット付近でレシーブしたときに、ネット付近に移動して、トスやアタックをしようとしている。 <行動①>
	2	○チームの課題を見付け、解決する。 (本時1/2時間目)	○チームの課題を見付けられるように、今までのゲーム記録を見返したり、作戦ボードで動きを確認したりする機会を設定する。 ◇これまでの学びを基にして、チームの課題を見付け、解決方法を仲間に伝えたり、仲間の考えを認めたりしている。 <行動①②③> ○チームの課題を解決できるように、今までの動きのポイントやコツが分かるシートを提示する。 ◇チームの課題解決のために考えたことを仲間に伝え、チームの課題や強みに応じた作戦を選んでいる。 <行動②>
まとめる	1	○「5の2トスキャッチバレーボール大会」を行い、学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように、「できるようになった動き」「できるようになった理由」の視点を提示する。 ◇ 自分や仲間の頑張りの中で、気付いたことを記述している。 <学習プリント③>

本時の学習（7／9時間目）

ねらい これまでのゲーム記録から見だしたチームの課題を話し合い、繰り返し練習したり、ミニゲームをしたりすることを通して、チームの新たな課題を見付けたり、自分たちのチームの課題を解決したりすることができる。

評価規準 これまでの学びを基にして、チームの課題を見付け、解決方法を仲間に伝えたり、仲間の考えを認めたりしている。 <行動①②③>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム記録を見てみると、ネットから離れた場所でトスをしなければならないときに、相手コートに返球できず、得点が取れていないな。 ・ネットから離れた場所でトスをしなければいけないときに、アタックをする場所や打ち方を考えながら練習やミニゲームをすれば、相手コートに返球できて、たくさん得点が取れそうだな。（課題意識） 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームの課題を想起できるように、前時までのゲーム記録を見返すよう促し、うまくいった点やうまくいかなかった点について問いかける。 ○チームの課題を解決し、ラリーを続けたり、得点が取れたりする期待感をもてるように、本時にできるようになりたいことを問いかける。
<p>めあて：チームに合った練習やミニゲームをして、課題を解決しよう</p>	
<p>2 グループごとに練習やミニゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は、トスする人がネットから離れた場所でボールを捕ったときの練習をして、その後、ミニゲームで練習の成果を試してみよう。 ・ポイントシートを見ると、「ネットから離れた場所でトスをするときには、アタックする人がトスする人に近づく」と書いてあるな。トスする人がネットから離れた場所でボールを捕ったときに、自分たちのチームは、どこでアタックを打っているのだろう。 ・ネットから離れた場所でボールを捕ったとき、アタックする人の後ろからトスが来るから、アタックしづらそうだな。 ・仲間の動きを見ると、トスする人が、ネットから離れた場所でボールを捕ったとき、アタックの人はトスする人の近くに行き、片手ではなく、両手でアタックしているな。両手でアタックすれば、片手よりも安定して相手コートに返せそうだな。僕もやってみよう。 ・ミニゲームで、練習したことを試したら、トスする人が、ネットから離れた場所でボールを捕った状況でも、相手コートにアタックできたよ。 <p>3 メインゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トスする人が、ネットから離れた場所でボールを捕った状況が課題だったけど、アタックする人がトスする人の近くに移動して、相手コートに返す練習をしたら、相手コートに返球することができて、たくさん得点を取ることができたよ。（課題を解決した意識） <p>4 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントシートを見ながら、繰り返し練習したら、トスする人がネットから離れた場所でボールを捕った状況でも得点を取ることができた。次の時間は、ネットの近くでレシーブになってしまったときの、トスとアタックの2人の動きを考えたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームの課題の解決に向けて、繰り返し練習し、ミニゲームで成果を試すという活動の見通しがもてるように、時間の使い方を兄弟チームで話し合い、スケジュール表に記入するよう促す。 ○チームの課題に応じた解決方法を選べるように、今まで学習した動きのポイントやコツが蓄積されている「ポイントシート」を提示し、自分たちのチームの現状と照らし合わせて、動きの評価・判断をするよう促す。 ○チームの課題の練習中、互いの動きを評価・判断できるように、レシーブが上がった場所に応じたアタックする人の動きについて、「ポイントシート」を基に、動きの現状を伝えるよう促す。 ○仲間の動きを基に、チームの課題の解決方法を見いだせるように、課題を解決した動きをしている子どもを紹介し、その動きのよさを問いかける。 ○チームの課題の解決に向けて練習した成果を確認できるように、練習に取り組む前と、練習に取り組んだ後のミニゲームの動きを、子ども同士で比較する機会を設定し、チームの動きの変化や高まりを問いかける。 ○チームの課題を見付け、練習をして解決していく過程のよさについて自覚できるように、前時に見付けたチームの課題の解決のために繰り返し練習し、課題を解決している子どもを称賛する。 <ul style="list-style-type: none"> ○チームの課題を見付け、練習し、解決できたことを実感したり、次時への見通しをもったりできるように、「できるようになった動き」「次の時間に解決したい課題」の視点を提示し、振り返りを記述するよう促す。